

愛宕山あたごの社は王城の乾あさひのにして、朝日嶽あさひのだけ白雲寺はくうんじと号、一の鳥居より坂路五十町ありて、はじめに試の峠あり。清瀧川きよたきがは

渡と猿橋えんけうひうち火燧ひのう権現ごんげんは十七町目にあり。櫓しきみが原はらは北の麓はらにして、南星峯なんせいほうとは乾のかたの嶺をいふ。鉄の華表あさひの額は表を朝日

山さん、裏はくうんじを白雲寺と書す。〔共に竹裏良たけのうちりやうじよはふしんわう恕法親王の筆なり〕

新 古 降つみし高根のみ雪解にけり清瀧川きよたきの水の白波 西 行 法師

同 岩根きよたきがはこす清瀧川きよたきの早ければ波おりかへる岸の山吹 権中納言国澄

堀川百首 時雨つ、日数ふれどもあたご山櫓しきみが原の色はかはらじ 顕 仲

本殿は阿太子山あたごさん権現ごんげんにして、祭所は伊弉冉尊いざなみのみこと、火産靈尊ほのむすひのみことなり。本地は將軍地蔵しやうぐんぢざうを垂跡となし、帝都の守護神として火災

を永く退給ふなり。久代は鷹たかが峯みねのほとりにありしを、光仁天皇くわうにんてんわうの御宇天応元年に、慶俊法師けいしゆんはふし此山をひらきて勧請し給

ふ。〔一説には天竺てんぢくの目羅にちら、唐土もろこしの是界せかい、日本にほんの太郎坊たらうぼう、此三鬼は衆魔の大將なり。文武帝もんむていの御宇大宝元年、役小角えんのせうかく泰

澄ちようの両聖人、かの悪鬼を退治せんとて、当山の幽谷いうこく般若はん若にやの石屋に籠りて靈驗を祈る、愛宕山あたごはつねに黒雲襲くろぐもて絶ず、両

聖人山頭に登るに黒雲忽變じて白雲となる、故に白雲寺はくうんじとなづく。其石屋の中に地蔵ちざう、龍樹りようじゆ、布留那ふるな、毘沙門天びしゃもんてん、お

のく出現し給ふ。詞字かじの尊像は甲冑を帶し、將軍の形を現じ給ふなり。当社の建立は勅を蒙りて和氣清磨わげきよまろいとなみし

とぞ〕例祭は四月中の亥日みにして神輿みこ二基あり。嵯峨清涼寺さがせいらやうじの鎮守を御旅所として、野々宮の、みやに振みて神供を備ふ。〔これ

を嵯峨さがまつりといふ〕六月廿四日は千日参りとして宵より群集し。月毎の縁日にも老人は皿竹輿みづけをかりて扶られ、婦人童

子のわかちもなく、万仞の嶮しきをいとはず、坂路の茶店に休らへば、白雲はくうんめ目の前を横ふ、あるひは土器なげに興じて足の重きを忘る。抑山城やましらのくに国一二に列なる高山にして、炎暑の折も峰寒ふ、道は嶮難たりといへども常に詣人おほく賑しきも、只権現の威徳ぞかし。